

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月8日(火)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 山川図書館
- 参加者数 : 【市民】61人、【市職員】市長ほか10人、【総計】72人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

地域の景気が落ち込んでいること、年金が減額されていくこと、介護保険を受けられなくなる状態になりそうだということ、指宿からも自衛隊員が出ていくのではないかということなど、不安になる。また、鹿児島県の観光客が減っているのは、熊本地震が起これば原発が近くにあるために避けられているのではないだろうか。他にも、指宿は核廃絶の宣言都市になっているが、日本が核廃絶の署名に反対したことや、学費が高くなり学生が大変になっていることについて、どのように考えているのか。

<市長>

住民と関連のある一番肝心なところを、今日は意見交換をしようとしている。貴重な意見をいただいたが、学費や原発等の問題は国会での審議によるところが大きい。

指宿の経済状況が傾きかけているというのは、今後10年、20年後をしっかりと見据えておかなければ大変になるということである。

【市民】

基盤産業の一つである農業の中でも、畜産業の生産価格は非常に高い。観光客が入ってくることによる感染症に対し、市の考え方はぬるいのではないか。ホテルやゴルフ場では、最低限の消毒マットを設置して欲しい。観光客により感染症が入ってきた場合には、畜産業のみならず全ての産業の流通がストップしてしまう。菜の花マラソンや、ホテル、量販店での消毒マット設置などの対策がなされていない所もある。

また、子育て支援において、児童手当以外の扶養控除を市はどのように考えているのか。

<市長>

家畜の伝染病については数年前、宮崎の口蹄疫の悲惨な状況があった。貴重な意見をいただいたので、意見にあったような取組を農協と協力しながら進めていきたい。

子育て支援については、生み育てやすい環境をつくるというのは国の方針でもある。控除というのは、きちんと定められた方法で全国一律に扶養控除はやっている。ただし、医療補助等の支援の厚さは市によってばらつきがあるが、医療補助については議会の賛同をもらいながら厚くしてきている。子育ての環境を整備し安心して預けて働きに行けるようにすることが、今後の一番の課題である。希望する保育園に空きがなく、子どもを入れることができないという状況がある。子育て支援にも力を入れていきたい。

【市民】

地方創生の説明にあった項目に対し、希望を申し上げたい。

一つ目は、歩いて楽しめるまちづくりについてである。鰻池に幅1m程度の周回の遊歩道をつくり、湖畔の宿のイメージも含めて整備し観光客を呼べないものだろうか。

二つ目は、新たな特産品開発についてである。山川のかつお節は、質・量ともに日本一・二を争う。枕崎のように、国外での現地生産について生産者は検討しているのか。

三つ目は、観光事業についてである。指宿には、日本三大海商の一人である浜崎太平次がいる。他の海商には立派な資料館があり、観光名所のポイントにもなっている。幕末の維新を成し遂げた影の偉人である浜崎太平次の資料館などを、観光事業の一つとしてやっていくことはできないものか。

<市長>

「西郷どん」が再来年には始まり、鰻もロケ地になることが予想される。鰻池に一周道路をつくるとしたら、深さ等は大丈夫か。鰻池を自転車などで一周できると、最高の観光地になるかもしれない。観光課と調査したい。

<副市長>

歩いて楽しめるまちづくりは、指宿港海岸整備事業を行っており、駅との連結を歩いて楽しめるまちとして整備できないか実証事業を行っている。もう一つ、山川のかつお節については、ブランド化を図るためにロゴマーク等を作れないか組合の方々と検討している。フランスでの現地生産については、本市ではまだ考えていない。

<市長>

枕崎と同じように、例えば香港でしようという雰囲気加工組合から出てくると、可能性は非常に高いと思う。先日、香港でトップセールスを行ったが、さつま揚げやお茶、茶節が人気であった。香港の飲食店でも、日本の食、特にかつお節などは是非ということで、香港への進出の計画を立てている。これからは、海外を含めた販路の拡大・戦略に努めなければならない。山川の本枯れ節は日本一である。漁協や加工組合と話をしながら、このような意見があったことを出したい。

それと極洋水産が、かつおのたたきの指宿工場を山川に造った。年間売上げが8億円である。社長の話では、かつおのたたきの評判が良く東京でもどこでも引っ張りだこで、ロサンゼルスに持って行きたいが、たたきの原料が手に入らないそうである。そこで私は、焼津、石巻、境、新潟等に行き、海まき漁船に山川へ入ってもらうようお願いをしたい。明日は、水産庁から担当者も来る。山川港が元気であると、指宿の飲み屋街等も賑わう。極洋工場を含めて、ここは頑張りたい。

浜崎太平次も御意見のとおりである。記念館など、観光資源として生かすべきだと思っている。常設展示等ができるような工夫を、考えないといけないのかもしれない。

<教育長>

浜崎太平次については、学校でも郷土の偉人として教えていこうと、その功績等を道徳や社会科の時間で取扱う機会があるが、資料等を展示するという場所は今のところない。ただ、教育委員会としては、指宿まるごと博物館構想という事業を展開しており、そういう中で浜崎太平次の資料展示等ができないか検討していきたいと思う。

<市長>

他の海商の展示館は、どのようなかたちであるのか。

【市民】

インターネットで見たところでは、極めて立派である。

<市長>

また、いろいろとアイデアをいただきたい。この件については、社会教育課や観光課とも話してみたい。

【市民】

旧山川町時代は農業と水産業のまちで、水産業の中心はかつお節製造であった。当時は若い男性もたくさん働いていたが、現状ではなかなかいない。賃金や満足度の問題もあるのではないだろう

か。現在は日本人が少なく、以前は中国人、今ではベトナム人が多くなっている。かつお節自体はさつま鯉節ということで枕崎と一緒にブランド化されているが、山川のかつお節は枕崎に遅れをとっている。かつお節製造は、市の基盤産業から外れてきている。活気ある山川にするためにも、皆さんの知恵を拝借したい。そうすることで、働く方の満足度や人口の増加にもつながるのではないだろうか。

<市長>

おっしゃるとおりである。中国も生活が豊かになり安い賃金では来る人がいなくなって、今はベトナムに替わった。働き手は一番の問題であり、魅力ある職場、賃金をどう保障するかだと思う。それと、ヤフードームでの鹿児島ファン感謝デーにかつお節を持って行くと列をなす。そのように魅力のあるものを何とかする方法を考えたい。これからは国内だけではなく、国外を含めて視野を広げなければならない。

また、山川港は念願であった無線検疫港となり、直接、海まき船が山川港に入ることができるようになった。しかし、海まき船の年間入港数を何艘といったことを条件に開港してもらったが、入る船の数が足りていない。頑張ってもらわなければならない。同時に3艘入れるための工事も始まる。あと一つは、食の安心・安全という面から、国の補助をもらいながら高度衛生型の荷捌場を造る。山川漁協の方々には、荷捌場だけではなく、観光客が見たり食事をとったりすることができるようにしたらどうかという話もしている。山川港は大きく変わり、山川が元気になるような事業が間もなく始まるので、皆さんからの御意見をいただけるとありがたい。

【市民】

介護の人材不足は、介護のイメージが良くないからではないだろうか。イケメンやきれいな女性の介護士をカレンダーのポスターにするなど、こんな素敵な若者たちが働いているというイメージをつくってもらいたい。生き生きと働いている写真等をカレンダーにすれば、子どもたちも介護士になりたいというイメージもわくのではないだろうか。

また、資源を生かすということについてである。人間の体の80%は水でできており、水は非常に大切である。唐船峡の水は、軟水でとてもおいしいと思う。湧水町の丸池湧水は日本名水百選にも入っているが、ペットボトルに入れて東京や関西で販売している。指宿もまねをして、関東に売ってみてはどうか。

<市長>

介護で働く上で、一番の悩みは何か。

【市民】

賃金も安く、重労働である。昼休みもなく、ご飯を食べたかどうかというような感じである。夜勤は特に、介護士の数が少なく大変だと思う。

<市長>

私の母もグループホームに入っており、本当に頭が下がる。職員も足りないのではないかと。

【市民】

全然、足りない。足りないといいで仕事をしなければならず、やっつけ仕事になる。ゆっくりとちゃんとした介護ができるような人材確保が必要である。

<市長>

おっしゃるとおりだと思う。介護の現場をどうみるかというのも市の仕事である。

あと一つ、唐船峡の水についてである。平成19年に、環境省へ唐船峡の水を持って行ったことがある。そこで国会議員や環境省の方々からおいしいと言ってもらえ、日本名水百選に選ばれた。そのときに、唐船峡の水を売ろうかという話もあり、1日に5千本くらいはけると何とかできるという計算もあった。また、中国資本も井戸を8千万円で買いに来たが売らなかった。中国資本は1日2万本買うと言ってきたが、水という資源を外国がということ断った。今後、水をどう生かすかということも考えたい。

これからは人口も減少し税収も落ちる。税収が落ちても、介護や福祉を充実させていかなければならない。経営という観点で、自治体が金儲けをしなければならないと思っている。石巻市役所の1階はコーヒーショップや店など全てテナントになっており、夕方になると買い物客などでいっぱい

いである。そして、テナント料をとっている。今後、持続可能な市にするためには、市も事業をして儲からなければいけないという気もしている。

【市民】

出身は兵庫県で、北海道に 10 数年、そして指宿に定住している。自治体がもうけなければいけないというのは、正にそのとおりだと思う。大学も今は独立採算になっており、産学共同でお金をもうけてしている。経営だったり共同で事業をしていく事業所等から、いろいろと知恵を借りてやっていかなければならないことだと思う。

指宿は申し分のない資源がたくさんあるにもかかわらず、それを利用できていないのが明らかである。温泉や特産品もあり、山川港も資源として活用するには魅力に溢れている。今、南九フェリーで大隅にも行ける。今、鹿児島で最強のコンテンツは屋久島だと思うが、屋久島にアクセスできればなおのこといいのではないだろうか。そのためにはまず、山川港にしっかりした基盤ができる必要があると思う。

帯広にあるばんえい競馬は、当初は赤字続きで、道内で4か所あったのが帯広の1か所だけになった。どんどん衰退していくばんえい競馬に目を付けたソフトバンクが、お金を出して復活させた。魅力的なコンテンツがあれば企業はのってくる。山川港を中心に、今進められているようなことをすればいいのではないかと思う。

まち・ひと・しごとの冊子については他でもよく見る話だが、何を一番重要にするのか。また、プロジェクトにおける目標がないと達成度合いが判定できない。きちんと目標を設定して進めてもらいたい。

<市長>

11月号に指宿に移ってと、指宿に対する意見をたくさん書いてもらっている。こうして指宿に来た方々が、新しい感性、しなやかな感性で意見を言うてくれることは非常にありがたい。資源を生かし切れていないというのと言われるとおりで。謙虚に反省し、また新たな戦略を練らなければならぬ。やる気になれば、企業等も出てくるというありがたい意見だと思う。

まち・ひと・しごとについても、若い人の鋭い指摘だと思う。

<副市長>

まち・ひと・しごとに掲げている全体像だが、一つは安定した雇用、もう一つは若い人が希望をもってこの地に来る。そして、安心・安全な地域ということで考えており、一つひとつプロジェクトを柱の中に掲げているが、例えば「もうかる指宿支援プロジェクト」では、新しい会社を起こすなど目標を掲げて事業をやっており、毎年これを見直して5年後にはその目標に到達するようなプロジェクトを掲げている。人の流れをつくるでも、交流人口をどうするといった目標を掲げてプロジェクトを推進している。そうした目標値を掲げて、国の地方創生事業からの補助を、現在は10パーセントだが、来年からは2分の1もらって事業を推進していき、5年後には魅力あるまちづくりとしての形が見えるものを戦略目標として掲げている。

<市長>

一番は人口減をどう防ぐか。そのために、まち・ひと・しごとというのは、人が減らないように頑張ろうというのが一番である。この中に、移住・定住促進と書いてあるが、数値をどう捉えているのか、どのような施策をするのかがわかる地方創生であってほしいということだろう。数値的な目標も冊子の中にはある。

<総務部長>

この中で大きなものは人口目標で、25,000人以上を最終的に2060年以降も維持をしていこうというのがこのビジョンの大きな目標である。それぞれのプロジェクトの中に数値目標を設けており、その中でも具体的な施策と重要業績評価指標を掲げている。一つ例を挙げると、地域企業応援センターによる事業展開では、年11件の創業者数を目標にしている。それぞれのプロジェクトの中に設けた重要業績評価指標については、毎年、市民を含めた方々で産・官・学・金融機関といった市民や企業、学校等と連携し評価をして見直しをするようになっている。

<副市長>

例えば、もうかる指宿支援プロジェクトというのが雇用の柱の一つにあるが、その重要業績評

価指標については、創業者数年 11 件を目指そうという目標値を掲げてこのプロジェクトに取り組んでいる。それぞれのプロジェクトについても、そのような目標値を掲げ取り組んでいる。

<市長>

例えば、オクラは大きくなったら使えない。盆ごろは収穫できずに、取ったのは捨てたりするのではないか。そのようなものを大学と一緒に、オクラパウダー等を作ろうといった研究をしており、一部はもう実用化している。大学や医学関係の方々などと一緒に何か生み出そうと 6 次産業として。売れないオクラも全部できるようにしよう、いろんなことをしようと大学等と連携して事業として走り出している。

まだまだ、やらなければならないことはある。農産物も作って売るだけではなく、付加価値を付けて何かやろうと、起業を含めて、とにかくもうかるようにしようというのが一つの事業である。それが雇用も生み、山川高校生も魅力がありもうかる農業を見ると頑張ろうという気も出るだろう。

こんなに宝がたくさんある所で何かするべきだという意見は、ぜひ生かしていきたい。そういう意見は、農政部でも構わないので役所にどんどん寄せてもらいたい。若い方々の意見も大切にしたい。

【市民】

山川町時代は施設の使用料を払う制度はなかったが、合併してからは使用料が発生し、必ず支払って使っていた。山川にはない施設もたくさんあり、隣りの開聞にはあっても使わない施設もあり、そのことについて心を痛めてきた。

特に県民大会という大きな大会があり、市民としては練習したことを発揮するいい機会であり参加するのだが、残念なことに指宿市には弓道の遠的会場がなかった。初代の市長が、早速造らないといけないと約束したが現在もできていない。それで、いつも低迷しているのが弓道部である。危険を伴うものであるので、家族の者たちも心配している。そこで、県民大会に出る者たちが自分たちでお金を出し合って、その会場が立派にでき上がった。これからの指宿市としては、このような会場はそうしていかなければならないのか。

【市民】

私の孫は、北指宿中学校で投てき競技をしていた。しかし、投てきは学校ではいけないということで休暇村の広場でしたり、砲丸投げの練習は陸上競技場でした。陸上競技場を使うと、使用料を取られる。ところが、県の試合に出ると北指宿中学校誰々とする。学校の部活動の一環としてやっているが、学校を使えないため他ですれば施設使用料を取られ矛盾を感じていた。

<市長>

今の件は、確かに合併したときにあった。地区や学校の代表が練習するときには減免又は無料にし、一般の同好会の方などが使用するときには使用料を取ろうというような差があったと思う。山川町では、スポーツの振興という面で使用料をほとんど取っていなかった。

確か平成 12~14 年頃、弓道場の整備をすると議会と言った。総合的な運動公園を整備して、スポーツを楽しめるようにしようというものであった。指宿では弓道の九州の大学の大会もあり、たくさんの方が集まる。今も、弓道場の整備は必要だと思っている。場所も含めてどうするのか。開聞にもあるが、遠的もできず駐車場も狭い。

県民体育大会の選手として、又は地元の代表として子どもたちが出たりするときには便宜を図るように、持ち帰って検討したい。学校の代表として出るときには、市もスポーツ・文化の振興基金をつくっているのだから、遠征に行ったり市の看板をからっていくような、又は中学校の代表として指定選手のようなことがあったら教えてもらいたい。

【市民】

山川駅の下には大きな駐車場があるが、指宿駅の無料駐車場はいつも満車であるので検討してもらいたい。

また、市が事業をすることについては大賛成である。都会で経験をして Uターンで帰って来る人など、経験者を雇うことも必要だと思う。

最後に教育についてだが、最近、子どもたちのあいさつが悪くなった気がする。実情を把握してもらいたい。

<教育長>

あいさつは基本中の基本である。どこに行ってもあいさつが出来る子に育てなければいけないと思っているので、学校に実情等も聞きたい。また、気付いたことがあれば教育委員会にも教えてもらいたい。

<市長>

駅の駐車場はいつも問題になる。観光協会や駅にも相談しているが、ここは何とかしなければならぬ。

【市民】

幼年少年婦人の会長をしており、地域における子ども達を見守る体制で頑張っている。今後、自主防災組織もどうなっていくのだろうか。東京に行っているいろんな勉強もするが、指宿も鹿児島県もとても遅れている。私たちも頑張っていくので、地方交付税の中に私たちの活動費が入っているのであれば、幼年少年婦人に対して少しでもいただきたい。また、広報活動を救急車に乗って行っているが、サイレンが鳴ったら降りなければならない。市から広報車を1台でも提供してもらえると助かる。

<市長>

地域の安全面で非常に努力をしてもらっているので、今の意見等を参考に、広報車であれば市にもあるので使えるように。他の所に負けないよう頑張ってくれていることに、本当に感謝している。